

平成25年度 標準的学力調査の結果

学校支援課

平成26年1月に実施した標準的学力調査（東京書籍版CRT）の結果をお知らせします。
(数値は平均正答率)

教科	学年	新潟市	全国	全国との差
社会	小学校5年	70.7%	65.5%	+5.2%
	中学校2年	47.5%	51.0%	-3.5%
英語	中学校2年	59.2%	57.2%	+2.0%

【社会・今年度の結果について】

小学校は、「基礎」「活用」とともに全国の平均正答率（以下、全国平均）を上回っている。特に活用については、全国平均を8ポイント上回っており、図表などの資料を適切に読み解く力が身に付いてきている。領域別では、特に「農業や水産業」で全国平均を10ポイント以上上回る内容が多く見られた。全般的に見て、着実に学力が向上していることがうかがえる。

中学校は、「基礎」が3.7ポイント、「活用」が2.4ポイント、いずれも全国平均を下回っている。領域別に見ると、歴史的分野（「近世の日本」）は概ね全国平均並みであるが、地理的分野で10ポイント以上下回る内容が多く見られた。学習内容を定着させるため、さらなる指導の工夫が必要である。

◆内容ごとの状況（小学校・社会）

○…全国平均を上回った主な問題

●…全国平均を下回った主な問題

- アメリカの面する海洋名を理解している。
- 米づくりの作業の様子について、写真から判断することができる。
- 日本の農業の課題について、資料をもとに考察することができる。
- 品種改良について理解している。
- 栽培漁業について理解している。
- 日本の食料自給率に関する資料を読み取ることができる。
- 食料生産にまつわる話題について、日常場面に即した内容と関係の深い資料を選択することができる。
- 野菜の産地表示や栽培方法についての知識をもとに、日常場面に即して妥当に

判断することができる。

- 自動車の生産過程におけるプレスについて理解している。
- 自動車の生産過程における塗装について理解している。
- 日本の川の特色について、資料を読み取ることができる。
- カントリーエレベーターについて理解している。

◆内容ごとの状況（中学校・社会）

- 日本の人口に関する問題について考えることができる。
- 大航海時代、ポルトガルやスペインなどが新航路発見をすすめた理由についての理解をもとに、写真を読み取ることができる。
- 宗教改革について理解している。
- 日本の領域の特色を理解している。
- 都道府県の位置と名称、都道府県庁所在地の名称を理解している。
- 日本の人口分布についての理解をもとに、地形別の分布を考えることができる。
- ハブ空港のしくみを考えることを通して、日本と世界の結び付きの特色を考えることができる。
- 航空路線による、日本と世界の結び付きの様子を示した図を読み取ることができる。
- 宮崎県で行われているピーマンの促成栽培についての理解をもとに、月別出荷量の特色について考えることができる。
- 北九州市で行われている、エコタウン事業について理解している。
- 寺子屋について理解している。
- 世界の気候区分についての理解をもとに、グラフの構成について考えることができる。

【今後の対応について】

- ・標準学力検査の結果を踏まえて、全国平均を下回った内容を授業で取り上げ、身に付くまで丁寧に指導する。
- ・基礎・基本の確認テストを単元終了時等、短いスパンで繰り返し行う。その際、未定着の生徒を把握して個別指導を行う。
- ・適切な学習課題の設定と学習内容のまとめのある授業改善を行う。
- ・写真やグラフ、図表などを読み取る活動や、自分の考えをまとめる活動を位置付ける。
- ・基礎・基本の知識をカードにしたり、評価票に示したりして明示化（可視化）する。

【英語・今年度の結果について】

新潟市全体の状況は、「基礎」「活用」とともに全国平均を上回っている。「活用」については、全国平均を4.4ポイント上回り、習った英語を使って英語の文を読んだり書いたりする力がついていると言える。

領域別に見ると、「読むこと」「書くこと」で全国の平均正答率を3ポイント以上上回っているが、「聞くこと」においては全国の平均正答率を1.6ポイント下回っている。このことから、全体としては良い状況にあるが、「聞くこと」に課題があると言える。

設問別に見ると、全体では35問中21問で全国の平均正答率を上回っている。設問を領域別に見ると、「聞くこと」では10問中3問、「読むこと」では12問中10問、「書くこと」では13問中8問で全国の平均正答率を上回っている。この結果からも、「聞くこと」に課題があると言える。

◆内容ごとの状況（中学校・英語）

○…全国平均を上回った主な問題

●…全国平均を下回った主な問題

【聞くこと】

- 絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。（場面・状況）
- 対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる。（交通手段をたずねられて）

【読むこと】

- 語形・語法を理解することができる。（be 動詞の過去の否定文）
- 語形・語法を理解することができる。（won't のあとの動詞の形）
- 英文の情報・条件をもとに、適切な絵を選ぶことができる。
- スピーチの内容を把握することができる。
- 話形・語法を理解することができる。（過去進行形）

【書くこと】

- 単語を正しく書く。（使う use, 人気がある popular）
- 英文を正しい語順で書くことができる。（接続詞 when を含む文）
- 夏休みの内容について、つながりのある3文以上の英語を書く。
- 単語を正しく書く。（食べ物 food）
- 英文を正しい語順で書くことができる。（副詞的用法の不定詞を含む文）
- 英文を正しい語順で書くことができる。（目的語に動名詞がくる）

【今後の対応について】

◎授業の中で、「聞くこと」に力点を置く。

- ・教師が話す英語 英語による英語授業に力を入れる。
- ・ALTの有効活用 ALTを授業の中で計画的に活用し、教師とALTの **interaction** を積極的に取り入れる。ALTが生徒に話しかける場面を多く取り入れる。

◎英語を聞く、話す、書くという活動を関連付けながら多く取り入れる。

- ・英語の語順が自然と出てくるように、たくさんの英語を聞いて話す活動を取り入れる。また、それらを正確に書く指導をきめ細かく行い、「聞く」「話す」活動と関連づける。
- ・習った語彙を使って、たくさんの英文を書く活動も積極的に取り入れる。

◎教科書の **We are Talking** の指導を改善する。

- ・教科書の **We are Talking** で登場した表現に関する問題で正答率が低いものがあった。ペアで会話をして終わりという指導にならないようにする。その表現を使って会話を発展させたり、書く活動と関連付ける指導が必要である。重要な表現をいろいろな場面で使えるように指導を工夫する。

◎「書く活動」にチェックを入れる。

- ・英作文の正答率は全国に比べて高い。何も書かない生徒は少なく、生徒は一生懸命に英文を書いている。しかし、いくつかの間違ひがあるので、間違ひを少なくする指導をしていく必要がある。教師が生徒の英作文をきめ細かく添削する、代表的な間違ひの例を示してどのように書けばよいか指導したり、生徒同士の確認を取り入れたりする。授業の振り返りの場面で、その日の学びを生かして英作文を書き、それに教師が赤ペンを入れるなどの丁寧な指導を行う。